

# 地方廳を訪れて〔四〕

一 記 者

## 兵庫の巻

六甲の山裾を走つてゐる鐵道の厄介に爲つて三の宮驛に下車して見上げると一番先きに眼につくのが兵庫縣廳、明治初期には縣廳でも外交のことやら居留地の事務を取扱つた爲に、普通田舎の縣廳とは違つて格式が高いやうな感じがしたのだが、事務は分化されて外交事務は外務省に取上げられ、關西唯一の開港地と言はれた扇港も、お隣りの大阪に築港されてから昔の誇も薄らぎ出した、で今日では兵庫縣廳と言はれても矢張り田舎の役所らしい氣持がする。併し廳舎は煉瓦積の洋館だ、明治三十五年の建築だから舊式に屬してゐて、大阪府廳に較べると餘程田舎地味で

ゐる、何でも明治の四年に和蘭領事コルトハルスの屋敷を買入れて一萬三千兩かで縣廳を建てたが、夫れが狹隘ぢやと言ふので明治三十一年周布公平が知事をしてゐる時代に三十一年度から四ヶ年繼續事業として三十四萬四百圓で建てたと言はれてゐる、周布知事は三十年にも夫れを計畫したが、當時縣下は水害を受けてゐるときで縣民の負擔に堪へないと言ふ理由で否決された歴史を持つてゐる、兎も角周布知事の計畫が是認され例の有名な服部一三知事の時代に完成したのだが、郡役所の廢止に依つて亦狭く爲つたので廳舎の中にあつた縣會議事堂を裏手に放り出し之を廳舎に充て、今又西側に擴張することにして工事を急いでゐる、是が出来れば土人が口癖のやうに言つてゐる開港場

の縣廳としての威嚴？を保つことが出來得るであらう。

長官は小柳牧衛、此間次田警保局長の次官榮轉と言ふ波紋に基因して行はれた長官の交送で、長崎から此處兵庫へ飛んで來た男、民政黨内閣が出來ると直ぐ福島知縣事に起用され夫れから長崎縣に轉じたと思つてゐると又候此度の榮轉、トン々々拍子の榮進とは彼に奉るべき言葉であらう。彼をして何が斯く爲さしめたか？ 夫れが問題だ、此内閣で出世する地方長官は、安達内相の

息のかゝつてゐる熊本閣か、夫れとも江木前鐵相の率いる山口閣か夫れでなければ

宇垣總督を背景に持つ岡山閣でなければならぬと言はれてゐる。夫れに彼れ小柳は西日本の生れぢや無くて方角違ひの新潟縣の出身だから是等の閣に這入らない譯だが、夫れに人竝外れて出世するので人を騒がすのだ、第一次若



槻内閣のときに彼は神奈川縣内務部長から抜かれて青森縣知事に爲つた、彼は其の嬉しさに感激して眞面目に事務家的手腕を振つたのであつたが、例の喜三郎内相に敵られてしまつた、歴代の青森縣知事は大底そこで敵首されるのが常態であつて、擔き屋に言はずと青森は内務省の鬼門だ扨

と言つてゐる位だから、彼が敵首されたのも強ち不思議ではないが、彼が人に話したやうに、俺の態度が民政黨に偏してゐると言ふので敵つたのなら、さぞ民政黨の人は僕の態度を不満に思つたであらう。と言つたやうに不偏不黨であつたらしい

のに喜三郎大臣が敵つたとすりや、矢張り之も鈴木さんの無謀であつた、夫れは兎も角餘り正當な理由がないのに敵首されると、神様でない人間が反抗心を起すのは當然である、彼も亦其の例に漏れないで、浪人中は例の民政黨監視員を仰附けられて青森や岩手神奈川に監視の

眼を光らせたり、民政黨院外團にも加はつて活動した、其の功勞を認めたのが安達内相で、之なら使えろと思つたのであらう、夫れからは準熊本閥として其の零圍氣内に入れて呉れた、ところが純粹な熊本閥に較べて見ると其の手腕は夫れ以上であることが判つた、夫れには熊本閥の主席大塚惟精が擧つて力を添えてゐる、此様な關係で今は時めく兵庫の知事さんに爲つたのだ。

こう考えて見ると、榮進するのも道理ぢやが、彼は夫れ程政黨に力瘤を入れて前々知事長延運式には活動しない、矢張り事務的見地に立つて持ち前の神經質を動かして事を處斷する、で政黨者流から言はるれば仕方なしに動きもするであらうか、言はれなければ理論の指す所に従つて行動する、夫れが彼の特質でもあり政黨者流に歓迎されない所以であらう、來るべき縣會議員の選舉でも政友系が大多數を占むる地に於て彼の手に依つて幾何の效績を擧げるかは頗る面白い見物だ、併し官吏の身分保證もどうやら成立するらしいから餘り無理な力瘤を入れない方が彼の將來を幸

福にするであらう。

内務部長は藤岡長和、大正三年の東大出だから熊本に生れてゐたらもう知事に爲つてゐる頃だが、幸か不幸か奈良で臍の緒を切つた爲に此處の内務部長に納まつてゐる、併し二三年出が一番多い内務部長級で兵庫の椅子を占めてゐるのは榮進の早い方だ、夫れと言ふのは、熊本閥の寵兒高橋守雄に見込まれて、あの八ヶ間敷かつた長野縣騒動事件に警察部長として跡始末をつけた功勞にも依るのであらう、高橋が知事をしてゐるとき徳島縣の内務部長であつた彼を警察部長に引張つたのだ、併しこう言ふと彼も何だか民政黨員がするやうだが、筆者は彼に今から左様な色を附けたく無い、頭腦至つて明晰な彼も、夫れを良く心得てゐる、だから高橋が彼の手腕に惚れ込んで引張り廻すだけの事だ。彼は随分順調に地方を稼ぎ廻つた、口の良くない連中は彼を官界游泳術にたけた先生ぢやなどと言つては居るが、夫れは當つてゐない。と言ふのは、彼は人に接するに頗る叮嚀で餘り官吏振らない特長を持つてゐると、永い間の

地方稼業で澤山な經驗を持つてゐて、長官小柳のやうに青島守備軍民政部附きと言つたやうな脇道を辿つてゐない、彼は學窓を出てから直ぐ地方稼業に出て長官以上の體驗を持つてゐる、で縣會議員を煽てたり蕩したりする手段を心得てゐる、或意味から言へば長官よりは横着だが、相手が相手だから已むを得ないのであらう、だから

縣民は問題が起ると、まあ知事は黨

臭があるから公平な内務部長に相

談しやう。と言つた調子で彼を訪

れるさうだ。で與黨は勿論野黨の

連中からも好評を博してゐる。

彼は鹿兒島縣警察部長をしてゐる弟

藤岡長敏と相揃つて地方官中の美男子だ、

従つて澤山なローマンスもある、今の妻君でも彼れ藤岡で

なければ嫁に行かないと駄々を捏ねたとやら囃されてゐる

位だ、其の妻君から教えられたものか、夫れとも妻君に教

えたのかは知らないが、彼は夫婦揃つて俳句和歌をやる、



彼の任務であらう。

土木部長は例の三輪周藏、此頃

藤は部長然と爲つて技術に關するや

うな些細事は萬事課長任せだと言

つてゐる、昔から餘り技術の方に

和熱心でなかつた彼をして益々技術

界から遠ざからしめてゐる、神奈

川に居たときでも餘り仕事をしなかつた、彼

に言はしむれば財政が乏しいので手も足も出なかつた、併

し夫れでも災害復舊工事を完成した、と言ふであらう、併

し此貧乏な神奈川縣が最近湘南道路と言ふやうな大工事を

しだしたことを思ふと、彼の辯明も餘り當つてゐないやう

だ、況んや災害復舊工事と言ふやうなものは、唯だ壞れたものを舊に復するだけの仕事だから筆者の言ふ仕事の内には這入らないものだ、そう言つてしまふと彼は仕事嫌のやうにも聞えるが、餘り地方大官に爲つてしまつた勢が地方の土木事業などを考えないのだ、いつぞやの地方土木主任官會議でも、地方土木技術が向上しないと

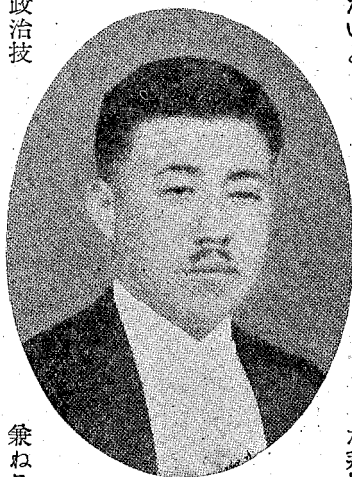
言はれるが、大きな目ほしい河川

や港灣の工事は政府が取あげて執行し、今度は又候道路にまで手を擴げて執行なすることは一層地方技術の向上を抑えるものぢや。と

大ビラ?を切つた。夫れ程、此方面

に頭が進んで來たらしい、誰やらが政治技

師のニツクネームを奉つたのも強ち咎むべきでないであらう。併し夫れを考えて呉れる役人は、お氣の毒だが他にあらるので、彼に心配をかけずとも可いことだからもう尠し彼に技術の研鑽を希望する。



内務技師であつたときも、随分河川行政の改革を叫んで働きもしたが、矢張り筋違いなことで彼の骨折は餘り殘されてゐないと言ふ有様だ、筆者の苦言を容れることが彼の將來を大ならしむる所以であらう、併し唯だ一つ彼の爲に喜ぶべきことは近時ゴルフを始めたことだ、手腕の程はまだ拜見しないから判らないが、之に興味を持

たしめたことは、彼をして他の遊

三 に耽溺せしめ無いやうに爲るから  
輪 だ、之であの方面へチョイ／＼手  
藏 を出す機會を與えないやうに爲つ  
たと、友人の總てが喜んでゐる、

兼ねると見え、近頃は老眼鏡をかけねばなら

ぬやうに爲つたさうだ、併し夫れをかけるのが餘程氣辛いらしい人の居ないときにはかけるが、人が來れば俄にポケットに入れて知らぬ顔を極めてゐるさうだ、併し自然の制裁は柔順に受けるが良い、夫れを受けて眼鏡をかけても構

はぬから土木行政に精を出すことが肝要だ。小柳が知事に爲つたとき、俺の事を餘り知り過ぎてゐる知事が來たと、悲觀もしない樂觀もしないやうな態度でゐたが、小柳の頭にはどう反映してゐるだらうか疑問ぢやが、小柳も尻が据はればそろく仕事を目論むであらう、此ときこそ積極的に献策して兵庫の土木を起すことだ。

○

六年度縣總歲出二千八十七萬六千圓、關西では大阪に次いでの大世帯、土木費は經常部に屬するもの百三十一萬圓臨時部が二百三十四萬圓、夫れに失業救済の道路費と政府の分擔金と土木補助費とを合すときは、五百三十三萬圓の鉅額に上つてゐる、總歲出五百萬圓臺の縣はさらにあるから之を管理する土木部長は夫等の縣知事と同じやうな氣に爲るのであらうが、世界は金だけで承知しないから仕方がない、夫れは夫れとして、歲出の世帯は大きい借金も亦大きい、今のところ千九百七十九萬圓ざつと二千萬圓の公債を起してゐる、其の内長期なものは昭和三十年まで行かな

ければ償還出来ないものもあるさうだ。併し此處兵庫は縣會が八ヶ間敷いので餘程堅實な組織でなければ起債を認め無かつたお蔭で、政府の財政のやうに赤字が出て惱むやうなことは無いと言はれてゐる、で他の府縣と同じやうに制限外の課税はしてゐるものの財政は樂な方で、本年度でも百萬圓の自然増収があると言はれてゐる。

此調子だから事業を起興すれば出来ないことは無い、併し何と言つても大縣で、瀬戸内海にある淡路島から日本海に面する但馬へかけての土地だから、利害關係が常に同一ではない、従つて事業の選擇にも厄介だが、西宮の築港に對して香住の漁港修築を以て配したやうにやれば雜作はない筈だ、併し縣費を投ずるからには夫れに因つて擧る縣民の利益が縣財政に反映するやうなものでなければならぬ、夫に依ると矢張り阪神間の投資に限るのである、前知事山縣は、阪神間發展の爲に六甲山にドライヴウェイを造つた岡知事も夫れに感心したのか、夫れともスポーツマンとして考へ附いたのかは知らないが、六甲縦走道路の新設を計

畫したと言はれてゐる、江木鐵相の妙案？から俄かに流行しだした外人誘致の策も亦必要であらうかは知らないが、外人のポケットを狙ふやうな仕事は、第二次的のものにして、縣民直接の利害に關係するものを最先にせなければならぬ、山縣のドライブウエーでも通つてゐるものは役所の自動車ばかりだ、昔から囃された阪神水道の經營やら阪神沿海埋立の問題が残されてゐる筈だ、是等から手始めて來たら縣下一新の魁と爲るであらう。

道路事業にしても阪神と神明の改良が完成され、政府がやつてゐる明姫間國道が出来たら一と先山陽道は近代式に改良されたことに爲るが、播州の山間部より丹波但馬の方面はまだ舊時の道路の儘で捨てられてゐる、撮津方面でも鐵道や軌道が敷かれてゐるにしても道路は矢張り同じことだ、昔から名高い有馬の湯へ行くのにも漸く自動車が通る位の路しかない、是等を改良することが焦眉の急であらう。

○

漫 錄

昔、此處兵庫の政黨は随分混亂してゐたものだ、夫れと言ふのは岡山に隣つてゐるお蔭で國民黨が相當根強く張つてゐて、政民兩黨に對抗したからであつたが、確か有吉忠一が知事をしてゐる時代に政友會と國民黨との議員が民友會と言ふ政治的結社を拵えて民政黨を壓迫した、詰り中央に於ける政友會と國民黨との合同を、此處兵庫縣會ではお先へやつてゐた譯だ、其の勢であらうか、縣會では民政一八、政友三一、無産と中立が七と言ふ割合で政友會絶對多數を占めてゐる。併し代議士の選舉に依つて民政が優勢を示し民政一〇、政友六中立三と言ふ數を示したことから推して政黨の地盤は大分動搖してゐる、で來る縣會議員の選舉にはどう言ふ結果が表はれるか頗る面白い見ものだが、讀者が此扁を手にしたときには既に判つてゐるであらう。

民政黨は前内務政務次官をしてゐた齋藤隆夫が支部長と爲つて統制してゐる。併し神戸には例の、と言つても人は餘り知らないであらうが商工參與官をしてゐた野田文一郎がゐて、昔小寺謙吉が振舞つた程には行かないが民政の大

御所見たいな顔をして縣會の萬事を指揮してゐるやうだ、齋藤は公平無私な男で餘り無理なことをしない、で頗る評判が可い彼は黨内でも禪坊主と言はれてゐる位に上品なものだが、地方的黨争と言つたやうな小問題には餘り嘴を入れないやうだ、上田實、田中源之助や小畑虎之助と言つたやうな連中が活動して支部の偉力を示してゐる。

政友會は、喧嘩で名を擧げた原惣兵衛が支部長として闘士青木雷三郎あたり使つて統制してゐる、が何分にも黨員が多數なので統制頗る困難らしい、いつだつたか縣會議長の改選のとき支部の幹部は畑七右衛門を推薦してゐるのに一派は之に反對し撲り合までやつたが矢張り治まらないで本部から岡田忠彦が飛んで来て仲裁したと言ふやうなこともあつて、原一人では治まらない、併し代議士には餘り評判は良くないが廣田宇一郎やら砂田重政と言ふやうな闘士が控えてゐるばかりか、民政の御大齋藤と肩を並べて評判の良い若宮貞夫等が並んでゐるから民政黨よりは何と無く強味があるやうだ、夫れに山脇延吉と言ふ地方的な豪の

のが居て政友の萬事に携つてゐることが地方政治に一層の重きを爲してゐる、固より此處兵庫の政友會の元老連は、原内閣時代に餘り横暴を極めたので縣民に愛想をつかされてゐるが、昔の潜勢力が縣内に残されてゐるから侮ることが出来ない。

今では政友會が多數だ、夫れに百姓に歡迎される農村政策を強調してゐるから支持者が多い、だから腕の凄いい知事が来て見たところどうすることも出来やしない、今ある三千五百萬圓で國道府縣道を改良する計畫でも、民政黨は常に夫れの變更を謀つてはゐるが、國庫補助の減額に依る豫算の更正位でお茶を濁してゐる位で自黨の主張を表はすことの出来ないのは氣の毒だ、併し代議士の選舉と言ひ農會役員の選舉と言ひ民政が相當力を得て来たから来る選舉には相當數を得るだらう、双方互角の力で行けば多數の中立や無産がキヤスチングボートを握るであらう。